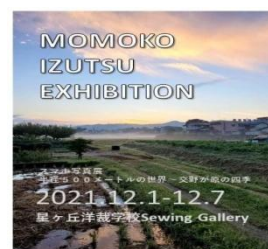


星ヶ丘のスマホ写真展

大阪市役所で資料をチェックしてから、淀屋橋から京阪で枚方の星ヶ丘で開催されている写真展に行った。星ヶ丘は名古屋時代に住んでいたこともあり、馴染みの地名だ。初めて駅を降り急な坂道を上っていった。途中で会場の「星ヶ丘洋裁学校」突きあたりを左へという案内があった。どんどん歩いたが、突きあたりはなく、足が疲れてきた。前からきた人に尋ねると、かなり行き過ぎていた。道路ではなく、坂の突あたりだったようだ。



とんだ失敗をしたが、「年代」を感じさせる会場で開催されている写真展に行ってよかった。和風の部屋に展示された多くの写真は、井筒百子さんが自宅周辺を毎朝スマホで撮ったものだ。撮影スポットの交野ヶ原について、井筒さんは次のように説明。



「交野台地の旧称で、現在の大阪府枚方市と交野市にあたる一帯で、その昔は広大な原野でした。大きな川が流れていたこともあり、多くの野鳥が集まっていました。そのため、平安時代になると貴族たちの間で、この地での遊獵がさかんにおこなわれました」

そして「私の行動範囲はまさに半径 500 メートルだ。毎日同じ場所を歩いて、何が面白いねんと思ったら、とんでもない。昨日と、今日は同じようで、同じでない。お日様は毎日、同じように昇るけど、毎日、同じ景色ではない。私の写真たちは、ただそのままの世界を写し取ったに過ぎない」と。

井筒さんは美しい写真を朝早く、フェイスブックに投稿している。朝一番に、それを眺めるのを楽しみにしてきた。田んぼや農園の風景など、羨ましく思うこともあった。そんなこともあり、時間をみつけ写真展に出かけることにした。私も自宅ベランダから見える生駒山周辺の朝焼けの空を定点観測して、写真におさめている。毎朝同じようで同じ景色ではない。とくに雲の様子と変化がおもしろい。

井筒さんとお会いしたのは数回ほどだ。印象に残っているのが、2018年12月15日に大阪天六で開催された「大阪革新懇 文化と講演のつどい」である。服部信一郎さんと司会を担当されていた。この日は宮本憲一先生が「オール沖縄の行動に学ぶ」というテーマで記念講演された。前日14日、安倍政権は辺野古の海への土砂投入を開始した。先生の講演は怒りの言葉から始まった。つどいのあと、宮本先生ご夫妻と一緒に懇親会に参加したことも忘れられない。

これが縁で、井筒さんと服部さんとフェイスブック「仲間」になった。お二人とは同年代なので、なにかと親近感を感じていた。残念ながら、服部さんは今年亡くなられた。階上で服部さんについても、すこし話げできた。星ヶ丘の写真展から多くを学んだ。

(2021年12月4日)